

| | | | |
|--------------------------|--|----------------|---|
| 授業科目名 | 教育実習 | 担当教員名 | 三上 聡子 / 石村 万寿美 |
| 科目区分 | 教職・保育に関する科目 | 施行規則に定める科目区分 等 | 教育実践に関する科目 |
| 必修・選択/単位数 | 必修 / 4単位 (80時間) | 授業方法/担当形態 | 実習 / オムニバス |
| 開講学年/学期 | 1/2年 期間 (期間) / 年間開講数 2講座 | 特記事項 | ※実務経験のある教員等による授業 幼稚園副総園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、幼児教育の現場での実例を多く取り上げて授業を行っている。/幼稚園園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 |
| 授業の概要及び全体目標 | 幼稚園教育の意義と目標を理解して教育実習への意欲を高め、実習に臨むために必要なことを学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <p>(1)幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校（園）の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>①幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</p> <p>②指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>③教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</p> <p>④学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>(2)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>②保育に必要な基礎的技術（話し・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。</p> <p>③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。</p> | | |
| テキスト | 「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著 | | |
| 参考書・参考資料等 | 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社、「月刊 保育とカリキュラム」（ひかりのくに） | | |
| 成績評価の方法 | 平常の受講態度や発表、課題（提出物）、実習園の評価をもとに合否を判定する。 | | |
| 授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等 | | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | | 到達目標番号 |
| 第1回 | 実習段階「導入・基礎段階」 指導実習の留意事項 (1)幼稚園現場を理解する (2)園児の生活の流れを理解する (3)保育者に学ぶ (4)短時間の指導実習 (5)短時間の指導実習のプロセス (6)実習の指導案 ○実施時期・期間：1年 11月・10日間 ○対象児：3歳児 | | (3)-①④ (4)-①②③ |
| 第2回 | 実習段階「総合段階」 指導実習の配慮事項 (1)長時間の指導実習 (5)日の指導計画(日案)作成の留意点 (6)指導の展開 ○実施時期・期間：2年 6月・10日間 ○対象児：3～5歳児 | | (3)-①②③④ (4)-①②③④ |